

女性の相談支援事業【三重県】

個別事業費	3,074千円
交付金額	1,536千円

地域の実情と課題

・コロナ禍で人との交流を制限されて以降、社会とのつながりを復活することができないといった悩みを抱える女性が増加しており、孤独や孤立を加速させないよう取り組んでいく必要がある。

・相談件数
R7:2,037件 R6:2,558件 R5:2,390件 R4:2,203件 R3:2,243件

事業の特徴

社会とのつながりを回復させたい女性に寄り添った支援を行うため三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」に委託して以下の取組を実施した。

- ・相談体制の強化、臨床心理士による専門相談を実施し、多様で複雑な課題に対応。
- ・講座や居場所づくりにより、孤独や孤立を抱える女性へのアプローチを強化。

事業の効果

- ・孤立や困難を抱える女性の相談ニーズに対応するとともに、これまで支援につながっていなかった層の把握が進み、心理的安全性の高い居場所づくりや継続的な関わりを行うことができた。
- ・相談窓口を起点として、医療・福祉・雇用・警察等の関係機関へつなぐ支援が機能し、状況に応じた適切な支援の提供につながった。

目的・目標

- ・孤立や困難を抱える女性の相談ニーズに的確に対応する。
- ・居場所づくりの充実により、参加者の満足度および継続利用につなげる。
- ・フレンテみえの女性相談(電話、面談、法律、心理)の件数
目標:2,800件 実績:2,149件
- ・居場所づくり事業参加者満足度
目標:85% 実績:80.6%

連携団体

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」登録団体
輝くみえのミライ☆三重県会議
三重県男女共同参画審議会
三重県文化振興事業団評議員会

【参考】
三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」パートナーグループ
NPO、市民団体、子ども食堂等

今後の課題

- 孤独・孤立に悩む女性からの相談は依然として多く、相談内容も複雑化しているため、専門性の確保や相談体制のさらなる充実が必要。
- ・一時的な支援にとどまらず、居場所やフォロー支援を通じて、社会とのつながりを維持・強化していく仕組みづくりが課題。
- ・支援を必要とする人に相談窓口の情報が十分届いていない現状もあるため、対象に応じた広報手法の工夫やSNS等を活用した情報発信の強化が必要。

事業の概要

①相談支援体制の充実

(1)相談員の増員

コロナの感染拡大を背景に大幅に増加した、孤立や孤独に悩む女性の相談に対応するため、フレンテみえの女性のための電話・面接相談に対応する女性相談員を1名増員しました。

《相談件数 2,037件》

(2)臨床心理士による心理相談の実施

深刻な悩みを抱える女性に対して、臨床心理士が心理カウンセリングの手法を用いて、電話による相談支援(心理相談)を実施しました。

《相談件数 40件》

②居場所づくり事業

日々の生活の中で生きづらさを感じている女性が、安心して立ち寄り、自分を大切にできる力を取り戻す「サードプレイス」をめざし実施しました。心理的安全性を重視した空間において、心理学講座やセルフケア、自由に過ごせる時間を組み合わせ、参加者の心身のリフレッシュと自己理解の促進を図るため、「こころの充電スポット『よしみちCaféふれんて』」を全3回開催しました。

《参加者 計78人》



第1回 令和7年9月27日(土)
テーマ:交流分析+リラックス呼吸法
(深い弛緩で心身を整える)

第2回 令和7年10月29日(水)
テーマ:交流分析+自分褒めのススメ
(慈しみ、ありのままの自分を認める)

第3回 令和7年12月19日(金)
テーマ:交流分析+未来の私への手紙
(自分との対話による自己理解と希望)